

日本発生生物学会

インホーメジョン・サーキュラー

No. 4

1969年7月

日本発生生物学会

サーキュラー№4は、去る5月30日の第2回総会で決定された事項などを、その後の経過とともに主内容としました。そろそろDGDになってからの最初の欧文誌もお手もとにとどく頃と思います。

和文誌の扱いに対しても具体化されつつあります。今から思えば学会が生まれた昨年の5月、お世話をして下さった東京教育大学の方々は紛争の激化の直前にしておられたわけでした。今年の5月の大会は「大学立法」が決った直後でした。大学紛争の中にもかかわらず学会の活動が軌道に乗ってきた事実を大切にしたいように思えます。

内 容

I 第2回総会決定事項など	P 1
II 和文誌についての報告	P 2
III 学会会計決算および予算	P 3
IV 第3回大会予告	P 6
V おしらせ	P 7
VI 会費納入について	P 8

日本発生生物学会

京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部植物学教室内
(郵便番号 606)

I 第2回総会決定事項などについての報告

5月30日午後4時より金沢大学教養部で、岸田大会委員の司会により木戸大会委員長の開会の辞、団会長の挨拶につづいて、遠藤善之慶応大学教授を座長として、報告および議事に入った。報告事項は、すでに何回かのサーキュラーでお知らせしている事柄でもあるので、こゝでは略します。

- ① 和文誌の件についてはサーキュラー63でお知らせしたように、従来と異なり不定期刊行物を出す件についての原案が三者委員会（岡田・古谷・柳島）から寄せられており、これについて、承認を得るとともに、内容や取扱いについて質問に答えながら古谷委員より説明があった。
- ② 和文誌編集委員委嘱について、不定期の単行本形式の出版物と、発生物学誌の編集は同一人が当ることとし、会長・編集主幹および運営委員会で検討した結果次のように決定されました。

主 幹 岡 田 節 人（京大・理・生物物理）

委 員 朝 倉 昌（名大・理・分子生物）

古 谷 雅 樹（東大・理・植物）

山 名 清 隆（九大・理・生物）

大 西 英 爾（名大・理・生物）

柳 島 直 彦（大阪市大・理・生物）

- ③ 1968年度決算および会費の一部変更について——欧文誌配布希望者の会費が従来1,600円のところを2,500円とすることおよび和・欧両誌配布の場合には、従来3,000円のところが3,400円とすることが承認されました。決算および会費変更のくわしい理由については別記の会計の記事を御参照下さい。
- ④ いわゆる「大学立法」について総会で活発な討議がなされ、総会名で反対声明を出すことが決定されました。声明文については、いくつかの原案が提出されたが、そのうちのひとつについて一部字句の修正が事務局に一任され、下記のような声明文が決められた。

「大学の運営に関する臨時措置法案」に対する反対声明

本学会総会は、この度のいわゆる「大学立法」についていろいろな観点より検討を加えた。その結果、この立法は日本の将来の自由と民主主義を発展させる基盤となる創意にとむ学問研究・教育に著しい制約を加えるものであるという見解で一致した。ここにこの立法に対し強く反対の意志を表明する。

昭和44年5月31日

日本発生物学会総会

105の関係機関および個人に送付したが、その為要した費用は、総会后出席会員からのカンパ(5200円)および、木戸大会委員長からのカンパによった。資料的な意味で声明文送付の依頼もあるので、決算の報告は次のサーキュラーで行いたいと思います。

- ⑤ 次期大会は植物生理学会と一部合同で行うことが諒承されましたが、次期大会準備委員会からの記事を参照して下さい。

II 和文誌についての報告

総会で古谷委員より提案され承認されたように(詳細はサーキュラー163に掲載)、今年度から学会発刊の和文刊行物を2種類とすることになりました。そのうちの1つは大体において従来通りの内容とスタイルで年1回刊行される発生物学誌ですが、これとは全く別個に、学会の編集とするが経済的には学会費と関係のない不定期刊行物を適当な出版社を通して刊行することになりました。具体化について6月28日編集委員会を開き討議いたしました。そこで学会編集でもあり、刊行ごとに主題を変えながらもかなり高度な内容をもったものという意図を十分に生かす出版社について種々検討を加えた結果、出版企画能力および高い技術水準・学術刊行物についての理解の深さ、販売能力などの諸点よりみて岩波書店に依頼することが決定され、幸い岩波書店からも、われわれの意向に対し積極的で誠意ある解答を得ることが出来ました。

編集委員会での決定事項のうち主なものは次の通りです。

- 1) 単行本扱いの不定期刊行物とし、最初は来年の大会の間に合うよう諸準備を行う。
- 2) 第1回刊行予定の本のタイトルは「発現現象における制御」とし、10名の方に執筆を依頼するが、内容は遺伝子による制御、環境による制御、体液要因による制御などを含めるものとする。
- 3) 一冊当りの市販価格は1,200円程度になるようにし、会員には若干低価格で配布できるようにする。

和文誌編集主幹 岡田節人 記

Ⅲ 日本発現生物学学会会計決算および予算

A. 昭和43年度決算報告

収入の部

会費	84,440.00円
広告料	3,000.00
会誌売上	26,102.3
本学会設立準備委員会基金残金より繰越	17,556

合計 1,152,979円

支出の部

和文誌印刷出版費(発現生物学誌第22号)	41,929.00円
欧文誌印刷出版費(Embryologia, vol 10, No. 3, 4)	1,188,070
インホームেশョン・サーキュラー他印刷費	27,186
文房具	13,688
郵送費	57,515
旅費	9,081.0
雑費	16,256

合計 1,812,815円

(収入)-(支出) = -659,836円

附記 収支決算はかなり多額の赤字を背負っている。しかし、Embryologia vol. 10, 11, 12, 13, 14の外国売上が約300,000円、昭和43年度事業に基づく確実な収入見込として期待される。また実験形態学会は発展的解消をしたわけであるが、会の財政残金、および実験形態学誌購読料未納金収入見込みをあわせて約200,000円がある。旧実験形態学会会員におはかりして賛同を得る手続きを経なければならないが、もしこれを発生物学会財政へ繰込むことが許されれば、Embryologia 外国売上与合わせて、赤字財政はそれ程深刻なものと考えなくてもよからうことを附記しておく。

B. 昭和44年度予算

収入見込の部

会費	1,114,400円
会誌売上	1,425,000
広告料	50,000
<hr/>	
合計	2,589,400円

支出予定の部

和文誌印刷出版費	450,000円
欧文誌印刷出版費	1,300,000
インホームেশョン・サーキュラー他印刷費	40,000
文房具	40,000
郵送費	310,000
旅費	70,000
手当・謝礼	605,000
雑費	50,000
<hr/>	
合計	2,865,000円

C. 日本発生生物学学会会費変更（昭和44年度より）の件

昭和44年度からの本学会事業には大きな変革が企画された。すなわち、欧文誌（Development, Growth and Differentiation, 略称DGD）を年4回の刊行として（旧欧文誌Embryologiaは、慣行として年2回の刊行であった）、大巾な内容の充実をめざし、DGD編集委員会から関係経費の増額が要求された。また、従来ともすれば一般事務、会誌編集事務の労力が、関係する研究者個人の犠牲的献身に頼っていた前近代性を改善し、人件費の大巾な確保により、事務運営、会誌編集活動の円滑化をはかることが提案された。その結果、上記予算表にみられるように予算の大巾な増額が要求されることになった。もしこれらの事業・運営変革を遂行するとすれば、どうしても学会費の値上げを行なわざるをえないことが結論された。一方欧文誌の実質的充実にとらわれず、従来の和文誌購読会員と欧文誌購読会員の会費が同額であることの矛盾とらみ合せ、下記のような会費値上げ案が運営委員会で作製され、総会に提出された。

	会 費	算 定 内 訳
和 文 誌購読会員	1,600円	（会誌関係 900円, 事務関係700円）
欧 文 誌 "	2,500円	（会誌関係1,800円, 事務関係700円）
和・欧両誌 "	3,400円	（会誌関係2,700円, 事務関係700円）

算定規準は多角的に検討されたが、上表の算定内訳にその大綱のみを示した。すなわち、学会費が会費に利益として還元される内訳を、事務関係に負う部分（インホームেশョン・サーキュラーによる情報提供、大会参加権利等）と、学会誌配布の部分に分けて考え、異種会員の間に公平が期されるよう配慮がなされた。幸に総会で上記案は承認された。しかし、上記予算表をみればわかる通り、これだけの会費値上げを行なっても、まだかなりの赤字が予想される。しかし、学会費の時価ともいうべきものを考えると、これ以上の会費値上げは好ましくないことは明らかであり、運営委員会および事務局としては、欧文誌の内容を高めることにより、外国からの収入を増す努力を行なうことによって財政の健全化をはかり、学会員にかかる負担はできる限り抑えたい意向である。DGDの評価が高まりさえすれば前途は必ずしも悲観的でないと信じている。会の健全な発展のために、特にDGDを盛り立てていくべく、会員の方々に論文寄稿をお願いする次第である。

— 会計幹事 石崎 記 —

IV 日本発生生物学会第3回大会予告

御承知のように第2回大会の総会において第3回大会は日本植物生理学会第11回大会と合同して、大阪市立大学でお世話をすることに決まりました。そこで大阪市立大学の両学会員で合同の準備委員会をつくり案をまとめています。大阪地区では大学紛争その他のため、地区の大学を会場に予定できませんので、学外の会場で開催される見込みです(神戸女子薬科大学の予定)。御了承をお願いします。詳細は追ってお知らせします。

会 期： 昭和45年3月27日～30日

昭和45年の特殊事情を考慮にいれて通常より早く開催する予定です。
なお会期の前半は主として植物生理学会の一般講演を、後半に発生生物学会の一般講演を行ない、中間に合同シンポジウムを予定していません。

会 場： 未定、現在2,3の会場について検討中です。

大 会 費： 1,500円 (予 定)

スケジュール： 第1回予告 (サーキュラー№4)

第2回予告 (詳細)をサーキュラー№5に出す。受付開始

11月末日 申し込みメ切

12月末日 講演要旨の原稿メ切

2月下旬 プログラム発送

なお、事情によってはここにお知らせした通りの形式による大会の運営が不可能になるかも知れませんが、とにかく大会を開催するように努力をいたします。

日本発生生物学会第3回大会 }
日本植物生理学会第11回大会 } 合同準備委員会

連絡生： 大阪市住吉区杉本町

大阪市立大学理学部生物学教室気付

または、京都市上京区上塔の段町494

天 沼 昭

V お し ら せ

A. 1969年に開催の発生生物学関係の国際学会について

学 会 名	開 催 日	場 所
28th Growth Symposium of the U.S. 'Communication in Development'	6月16-18	Boulder, Colorado, U.S.A.
20th Annual Meeting of the Tissue Culture Association 'Cell to Cell Communication'	6月9-12	Detroit, Michigan, U.S.A.
XI International Botanical Congress	8月24~ 9月2	Univ. Washington, Seattle, Wash., U.S.A.
IX International Embryological Conference	9月25-29	Moscow, U.S.S.R.
The First Workshop Symposia on Morphogenetic Tissue Interaction	9月2-4	Helsinki, Finland
The VIII International Congress of Gerontology	8月24-29	Washington, U.S.A.
The Third International Conference on Congenital Malformations	9月8-12	Hague, Netherlands.

団会長によせられたI.S.D.B (International Society of Developmental Biologists)のNewsletter (5月1日付)より、詳しいことをお知りになりたい方は庶務幹事あて連絡下さい。

B. 生物物理学講習会について

日本物理学会主催の講習会が8月20～23日の間科学技術館ホール（東京都千代田区代官町2）で行なわれますが、本学会も共催団体の1つになりましたので参加会費が割引（8,000円のところ6,000円）になります。くわしいことをお知りになりたい方は庶務幹事宛連絡下さい。

VI 会費納入について

今年度の会費を同封振替用紙を用いて、出来るだけ早くおとどけ下さい。

会費	和文誌のみ配布希望者	1,600円
	欧文誌のみ配布希望者	2,500円
	両誌とも配布希望者	3,400円